

《埼玉協同病院だより》

ふれあい

2013年 No.308

発行：埼玉協同病院
〒333-0831 川口市木曾呂1317
Tel.048-296-4771
Fax.048-296-7182

6

おもな記事●専門医シリーズ⑤／
肝臓病教室開催の報告
健康マメ知識／虹の投書箱／連絡バス時刻表

診療科紹介 外科

腹腔鏡手術に 力を入れています

組合員の皆様こんにちは。当院外科の紹介です。

消化器がん、乳がん、肺がんを中心に昨年は約630件（うち全身麻酔540件、緊急手術100件）の入院手術がありました。肝臓、胆嚢胆管、膵臓のがんに対する手術から乳がん、肺がん、鼠径ヘルニア、皮下腫瘍切除術まで、乳腺科医1名、呼吸器外科医1名、消化器外科医8名、静岡県立がんセンター肝胆膵班で外部研修中1名の11名で行っております。

今年は新たに植田先生を迎え、食道がん手術についても拡充を図る予定です。

現在は腹腔鏡手術に力を入れており、1995年より胆石を中心に開始、現在年間約100例の腹腔鏡下の胆石手術を行っています。腹腔鏡での手術完遂率は94%となっています。

さらに大腸、胃に対する腹腔鏡手術症例も徐々に増加、昨年の実績で大腸がん5割、虫垂炎9割が腹腔鏡下での手術となっております。

教育資格関係については、
日本外科学会専門医制度修練施設(1988.01.01)
呼吸器外科学会呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度関連施設(2010.04.01)
日本乳癌学会 関連施設認定(2013.01.01)
日本がん治療認定医機構認定研修施設(2010.11.01)



前列左側から、植田医師、市川医師、井上医師、井合医師
後列左側から、長医師、浅沼医師、重吉医師、岸本医師

を取得しており、今年度は日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設にも認定される予定です。

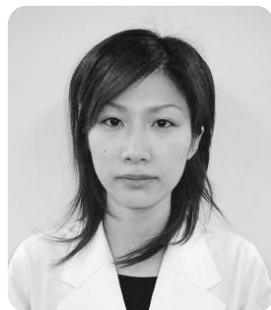
外科の教育には時間がかかりますが、外部研修も交え積極的に手術に関わらせることで早期に自立出来るように努めています。

今後も、地域に密着し、安全で効率的な医療を提供できるようにしていきます。

(外科部長 井上 豪)



佐野医師



金子医師

風疹が大流行し、 社会問題になっています

風疹は「三日はしか」とも称されるとおり、発疹、発熱、首や耳の後ろのリンパ節の腫れがみられますが、たいていは数日で治ってしまうウイルス感染症です。重症化することはほとんどありません。では、何が問題なのでしょう？

それは、皆さんもご存知のように、妊娠初期の女性が『風疹』に感染すると、おなかの赤ちゃんにも感染し、耳がきこえにくい、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある、発達がゆっくりしているなど『先天性風疹症候群』という病気にかかってしまうことがあるからです。

風疹は、ウイルスに感染してから発症するま

での潜伏期が14-21日と長く、また、感染しても発症しない（不顕性感染といいます）ことがある病気です。免疫を持たない妊婦さんが知らぬ間に風疹に感染し、生まれてくる赤ちゃんが『先天性風疹症候群』に罹ることがないようにするためには、社会全体が風疹に対する免疫を持たなくてはなりません。妊娠を望む若い女性だけでなく、周囲の方々も免疫の有無を調べましょう。血液検査で確認することができます。もし、免疫がない（弱い）ようであれば、ワクチンの接種をお勧めします。風疹ワクチンは有効性が高いワクチンの一つです。

(感染管理認定看護師 吉田智恵子)

新年度の 健康診断スタート



2013年度の健康診断の予約申し込みがはじまっています。

お手元に受診券が届いている方は予約申し込みの時と受診時に必ず必要となる大切なものです。紛失しないよう、受診時まで大切に保管しましょう。

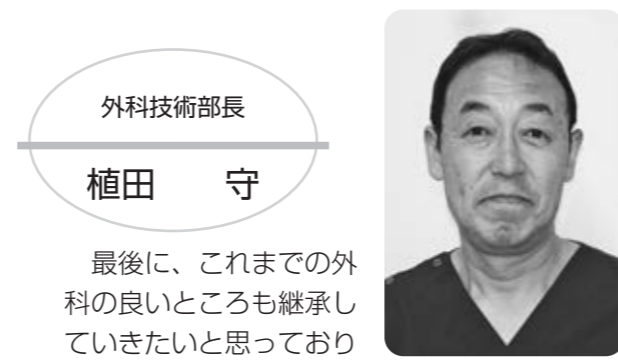
専門医シリーズ 5 早く環境に慣れ地域に役立ちたい

4月より外科でお世話になっております。皆様より多少年齢が上ですが、少しでも早く環境に慣れ、地域の医療に少しでもお役に立ちたいと願っております。

私は、General thoracic surgeon (胸部外科)の専門を目指し、大学外科学教室へ入局しましたが、日本の特殊性のため、途中より消化器外科が主体となり、General Surgeon (一般外科)、Oncological Surgeon (腫瘍外科)と

なり現在に至っております。

外科は各臓器が複雑に関連し、内科治療の発達進歩にかかわらず、治療で扱う分野も拡大傾向にあると考えます。また、最近の鏡視下手術を中心とした技術や、医療器具の進歩は急速で、勉強を怠る暇さえ与えてくれません。患者様の意識も変化しており、お若い治療医の足手まといにならないよう勉強したいと思いますので、ご教授のほどよろしくお願いたします。



外科技術部長
植田 守

認定資格

- ☆日本外科学会専門医・指導医
- ☆日本消化器外科学会認定医
- ☆日本胸部外科学会認定医
- ☆日本がん治療機構がん治療認定医

最後に、これまでの外科の良いところも継承していきたいと思っております。

クリニカルインディケータ 24

医療の質を改善するとりくみ～病院機能評価の認定更新

2年間にわたり、クリニカルインディケータ (医療の質を定量的に測るものさし)を用いた質改善のとりくみを紹介してきましたが、今回は、昨年12月に行われた病院機能評価の訪問審査の結果について紹介します。

病院機能評価は (財)日本医療機能評価機構が行っている病院を対象とした第三者評価で、2013年4月11日現在で2,403の病院 (8,580病院中)が認定されています。当院は、1998年2月に全国で28番目に認定されて以来、今回3度目の更新審査を受け、引き続き認定されました。

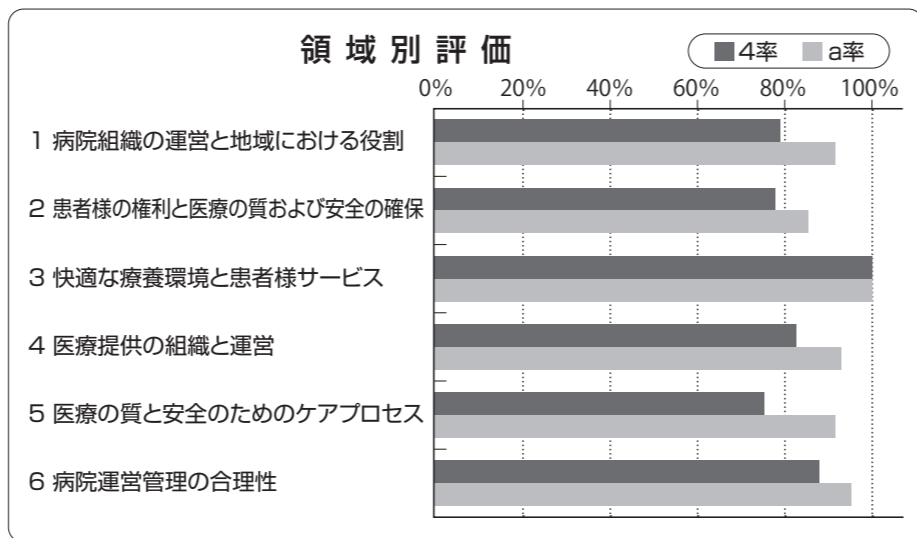
第三者評価は、客観的・公正な立場から、世の中の水準に照らして評価します。受審の準備を通して、病院の基本理念にもとづいて医療を提供できる病院のしくみや運営と、日々それが実践できているかを、評価項目にそって自己点検し、課題を明らかにして改善することがとても大事なことです。世の中の水準も上がっていく中で、前回とほぼ同レベルの評価が得られたことは、継続的な維持改善のしくみが運用できている成果と考えています。

図に評点の状況を示します。病院機能評価は6つの領域を200の中項目 (5段階評価)と574の小項目 (3段階評価)によって評価し、1つ

の中項目に対して小項目がすべてa評価の場合に4評価 (「適切に行われている」「積極的に行われている」となります。その中で特に優れ全国に広めたいととりくみがある場合に5評価となります。今回は残念ながら5はありませんでしたが、4評価が159 (80%)、a評価が523 (91%)と、前回とほぼ同程度の評価を得ることができました。特に「3快適な療養環境と患者様サービス」では、床、壁の改修やプライバシーの配慮や案内機能の見直しなど、療養環境を改善し、すべての項目で4評価となりました。「4医療提供の組織と運営」では、看護師の段階的育成や認定看護師の配置による看護の質改善や、救急医療の強化、ICU (特定集中治療室)の運用、放射線診断機能の充実、「1病院組織の運営と地域における役割」で禁煙の推進

を強めてきたことなどは前回から前進した部分です。クリニカルインディケータを用いた継続的な質の改善活動は、引き続き高く評価されました。

一方で、課題も明確になりました。患者様の権利の学習や、臨床で問題となる倫理的課題の解決のしくみ、チーム医療の基盤であり患者様との情報共有の前提となるわかりやすい医療記録の整備などです。今年度の課題に位置づけとりくみを開始しました。 (診療情報部)



当院と医療連携している

開業医さんご紹介

35

リハビリテーションクリニック杜



【診療科】内科、小児科、整形外科、リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	—	○	○	—
午後 14:00~17:00	○	○	○	—	○	—	—

【休診日】木曜日、土曜日の午後、日祝祭日

院長：長池 博司



クリニックの外観

平成5年に当地に開業して以来、約20年間、リハビリテーション専門のクリニックとして、患者様、地域住民の方々に寄り添う医療を展開してきました。「病気を診るより、病人を診る」をモットーに、患者様一人一人の想いや価値観を第一に考えて、治療とリハビリを行っています。リハビリ専門の医療機関が少ない中で、「社会復帰をさせたい」という思いから、介護保険の通所リハビリや県内で4施設しかない障害者のための「自立訓練 (機能訓練) 事業所」として、自立を目指す方々に必要な訓練を提供しております。内科や整形外科などの疾患についても対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

埼玉協同病院には患者様の急変時の対応や、いつでもどんな時でも診てもらえる救急病院としての機能を充実して欲しいと期待しております。

※「ふれあい」に掲載の開業医さんを受診される際は、受診前に必ず問い合わせをお願いします。

肝臓病教室開催の報告

患者様やご家族の思いを聞けました

4月20 (土)に「肝臓病教室」を行いました。2009年度から始めた肝臓病教室です。内容に変化を加えながら今回で5回目となりました。

今回は「肝硬変」をテーマにし、前半2時間を講義、後半30分を交流会とした二部構成で行いました。参加者総数は16名でした。

講義では、医師・栄養士・薬剤師・看護師の4職種から行いました。質疑応答では積極的にご自分の病気のことで質問をされていた参加者

もいました。

交流会では、ご自身の病気の経験や、ご家族の病気について普段感じている思いを聞くことができました。

今後も患者様・ご家族の方々が楽しみながら学び、療養生活の一助となる教室を企画していきたいと考えています。

(消化器内科医療チーム)



福本顕史消化器科科長による講義

皮膚科 イオン導入のご案内

皮膚科外来では、午後の時間にビタミンA、ビタミンC含有のイオン導入剤での施術をしています。

紫外線の曝露により皮膚ではメラニンが産生され、皮膚のほりを保っているコラーゲンなどの減少をまねきます。そんな皮膚に必要なのが

ビタミンAとビタミンCです。ビタミンA、Cはメラニンの生成を抑制し、コラーゲン等の生成を促進します。通常ぬっただけでは皮膚にはあまり浸透していきません。イオン導入は薬剤をイオン化し電気的な性質を利用して有効成分を多量に皮膚に浸透させます。またその上からパックを行うことによりさらに浸透を促します。定期的にイオン導入を行うことにより、くすみやシミを改善して、ほりのある健康的な肌を維持することができます。夏の紫外線ケアとしていかがですか。

詳しくは皮膚科看護師・竹内までお問い合わせください。



ビタミンAを配合したジェルで、活性酸素を抑制・消去し、肌の酸化を防ぎます。

ビタミンAの働きで紫外線や活性酸素によるダメージから肌を守るとともに、ダメージを受けた皮膚細胞を補修し、マッサージを行います。肌表面の余分な皮脂や毛穴に詰まった汚れを取り除くことで、角質の状態を整え、その後のトリートメントの効果を高めます。

肌を沈静しながら、有効成分の浸透を促します。

クーリングパック (アルジネートマスクII) を使いイオントフォーシスを行うことで、肌を沈静しながら、同時にビタミンを浸透させることができます。ソノフォーシスの効果は持続性があるため、クールビタミントリートメントを使用することにより有効成分の浸透はより向上します。

風疹のワクチン接種をすすめています

問 今年、風疹が大流行しています。妊婦さんも多く来院する埼玉協同病院では職員に風疹のワクチンは打っていますか。

答 医療機関として感染予防は重要な課題です。当院では、職員に対して風疹や麻疹の抗体価を確認しています。抗体量が十分でない場合は、積極的にワクチン接種をすすめております。妊婦さんへの風疹感染を予防し、生まれてくる赤ちゃんを先天性風疹症候群から守るために、来院される方々にも予防についてお知らせしています。回答者：衛生管理者 稲村まゆみ (看護副部長)

虹の投書箱 だよりの

協子ちゃんの健康マメ知識

第138回

● B型肝炎の検査のみかた ●

B型肝炎ウイルス (HBV) に感染すると、血液中にウイルス遺伝子 (DNA) のほかに、体にとって異物となるウイルス由来の蛋白質である抗原や、抗原を排除するために免疫機構によって作られた抗体 (免疫グロブリン) が増加し、HBV感染の目印となります。

まず、HBs抗原を調べます。HBs抗原の陽性 (+) は、HBVの感染を示します。HBs抗原が陽性 (+) の場合は、HBe抗原、HBe抗体、ウイルス量 (HBV DNA量) を調べます。また、HBs抗体が陽性 (+) の場合は、過去にHBVに感染していたが、現在はウイルスが排除されて免疫ができていている可能性が高いことを示しています。

抗原 (HBV由来)	抗体 (体内でつくられる)
HBs抗原	HBs抗体
HBe抗原	HBe抗体

過去にHBVに感染したが治療しており、HBVに対する免疫ができています。HBVの予防接種を受けた方。HBVの増殖が落ちている状態。感染力が弱い。

HBVの抗原にはHBs、HBeのほかにもHBeCがあります。HBVの感染は血液を介して起こることが多く、飛沫・接触では感染しません。

